

大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 長崎大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプB①))

持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する国際協働人材養成プログラム

【交流推進事業の概要】

世界有数の漁場であり、また多様な海洋生物の産卵・生育場でもある東シナ海や南シナ海を含む北太平洋西部海域の沿岸国である日中韓マレーシアの海洋・水産系大学が連携して交流プログラムを構築する。

アジアにおける持続可能な海洋環境と水産の実現に貢献できる国際性豊かな高度専門人材を育成する。

【交流プログラムの概要】

○日中・日韓の修士課程ダブル・ディグリープログラム

- ・2大学教員による共同指導教授制
- ・修士(水産学)・修士(環境科学)の学位授与
- ・海外大学に1年間の滞在

○ハイブリッド型短期留学プログラム

- ・日中韓マレーシアの4大学間交流
- ・実渡航(複数国派遣)2か月+オンライン(渡航前・渡航後)1か月

【本事業で養成する人材像】

気候変動や人間活動により持続可能性が失われつつあるアジアの水産資源と海洋環境の回復を図り、それらの「海の恵み」を将来にわたって持続的に享受するため課題解決策を、アジア諸国の多様性の理解の下で共創できる高度専門人材を養成する。

【本事業の特徴】

○日中韓による修士課程のダブルディグリープログラム

教育の中核となる「持続可能な海洋環境と水産業」関連科目を3大学の教員による共同講義として統一化するとともに、ペアとなる2大学の教員による「共同指導教授制」により教育効果を共有しながら英語学位論文の執筆をサポートし、修士(水産学)・修士(環境科学)等の学位を授与する。

○日中韓にマレーシアを加えた短期留学プログラム

オンラインでの英語講義に加えて、マレーシアでのサマースクール、臨海実験所でのフィールド実習、各国の水産・海洋関連企業等におけるインターンシップなどを効果的に組み合わせたプログラムは、学部学生・大学院学生の両方が参加可能。

○日中韓の漁業練習船を使った相互訪問・研究交流会

日中韓の漁業練習船を使った相互訪問・研究交流会のほか、国際学会に設ける特別セッションに参加することで、国際的な研究者交流や研究発表の経験を積むことができる。

【交流予定人数】

| | | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
|----|-------------------------------|------|------|------|------|------|
| 派遣 | 実際に渡航する学生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 実渡航とオンライン受講を行う学生 | 0 | 6 | 8 | 10 | 10 |
| 受入 | 実際に渡航する学生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 実渡航とオンライン受講を行う学生 | 0 | 6 | 12 | 18 | 20 |



アジアの水産資源と海洋環境の回復を図り
海の恵みを持続的に享受するための解決策を
アジアの多様性の理解により共創できる高度専門人材の養成

**アジアにおける持続可能な
海洋環境と水産業の実現**



1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する国際協働人材養成プログラム】
(採択年度 令和3年度)

■ 交流プログラムの実施状況



(4大学オンライン交流会の開催ポスター)

日中韓マレーシアの4大学の大学院生18名が参加したオンライン学生交流会を2021年2月に開催し、持続可能な海洋環境と水産に関する最新の国際情勢を学ぶ特別講義や、参加学生全員のショートプレゼン(研究紹介)により、国際人材養成に資する教育活動を開始した。

本事業は今年度採択事業であり、実質的な学生派遣・受入は来年度(2022年度)開始となるが、その準備として本事業の主体となる学生への教育・交流機会を、コンソーシアムを形成する4大学の共催で設けられたことは大きな成果である。今後も、派遣を希望する学生への動機付けの機会確保といった要素も含めて、このような取組みを定期的・継続的に実施する予定である。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

本事業は2021年度に採択され、実際の派遣を伴う留学プログラムは次年度(令和4年度)開始のため、現時点での派遣実績はない。

○ 外国人留学生の受入

本事業は2021年度に採択され、実際の受入を伴う留学プログラムは次年度(令和4年度)開始のため、現時点での派遣実績はない。

| | R3 | |
|-------|----|----|
| | 計画 | 実績 |
| 学生の派遣 | 0 | 0 |
| 学生の受入 | 0 | 0 |

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ✓ 本事業に関する学内運営委員会に関する内規を制定した(令和4年2月)。
- ✓ また、本内規に基づき、令和4年3月に学内運営委員会および内部評価委員会を開催した。
- ✓ 加えて、次年度(2022年度)から開始する短期留学プログラム、2年後の2023年度開始のダブルディグリープログラムについて、コンソーシアムを形成する中心大学である中国海洋大学、釜慶大学校および長崎大学が主となり、それら大学における教務事項や提供科目等の情報をオンライン会議等を通じて共有した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

実渡航を伴う学生派遣・受入は次年度2022年度からの開始であるが、その準備として「オンライン講義配信システム」を本学講義室に導入し、試験運用を終了し、次年度2022年度以降の実使用に向けた整備を終了している。

本システムは、複数台のカメラを使用することにより、本学講義室で受講している日本人学生、海外からオンラインで受講している留学生および担当教員の映像および音声をクリアに展開できるため、双方向のディスカッションなどにおける有効性が期待できる。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本事業専用ホームページを新たに立ち上げ、運用を開始した。また、広報用パンフレットを1000部作成し、本学大学院水産・環境科学総合研究科、水産学部、環境科学部の新年度学生オリエンテーション時に配布することを決定した。広報資料として、本補助事業の内容紹介資料(スライドショー)を作成し、本学水産学部、環境科学部玄関に設置されたデジタルサイネージにて表示した。

■ グッドプラクティス等

日中韓マレーシアの4大学の大学院生18名が参加したオンライン学生交流会を2021年2月に開催し、持続可能な海洋環境と水産に関する最新の国際情勢を学ぶ特別講義や、参加学生全員のショートプレゼン(研究紹介)により、国際人材養成に資する教育活動を開始した。

